

① 浦戸諸島(宮城県塩竈市)——浦戸小中学校

海も船も学びの場—— 島とともに歩む浦戸の学校

塩竈市立浦戸小中学校 校長 斎藤 博厚

●子どもたちの瞳が輝き、元気な声が響く島を

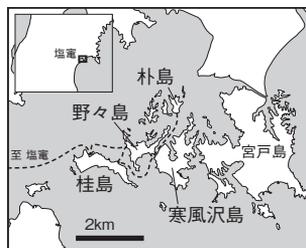
子どもたちは島の宝物——この言葉は、島の区長さん方からいただいた最高の贈り物であり、教員として使命感に燃える原動力となっている言葉です。

平成一六年三月、それまで浦戸諸島の寒風沢島にあつた浦戸第一小学校は、在籍児童が三名のみとなり閉校となりました。その三名の児童は、桂島にある浦戸第二小学校に籍を移します。しかし、同校も在籍が一九名となり、さらには入学児童数の増加が見込めません。そこで、今後の学校教育のあり方について、保護者・地域・学校・市教育委員会を含めた話し合いの場がもたれ、野々島にある浦戸中学校に浦戸第二小学校を併設し、学校の活性化を図ること

が決められました。

平成一七年度、活性化に向けて、島外からの児童・生徒の受け入れを可能にする「小規模特認校制度」を取り入れました。これは、島の豊かな自然の中で小規模校の特色ある教育を受けたい、という保護者や子どもたちの希望がある場合、住所を移さずに学区外からでも、その児童・生徒の転入を認めるというものです。浦戸第二小学校・浦戸中学校は、宮城県内最初の指定校です。同二七年度、小中一貫校となるのにもない、学校名が浦戸第二小学校から浦戸小学校に変更され、浦戸小中学校の幕開けとなりました。

本校では、将来、積極的に社会に貢献できる人間を育てるため、地域に根ざした教育活動や文化活動に力を入れています。また、少人数であることを生かして、各人の役割



浦戸諸島：日本三景の松島湾内にあり、桂島・野々島・寒風沢島・朴島の4島からなる複雑な海岸線をもつ島々。人口は4島を合わせて363人(平成28年8月末現在)。総面積は2.92km²、海岸線の総延長は31.4km。カキや海苔の養殖など水産業がさかん。



下校の船のなかで勉強（船勉）する児童。



塩竈市唯一の田んぼがある寒風沢島での田植え体験。



島の漁業者さんによる牡蠣むきの講習。

●登下校も学習の場

今年度の児童・生徒数は、小学生一七名、中学生一九名の計三六名で、そのうち特認児童・生徒は三四名です。どの児童・生徒もとても素直で穏やかです。小学一年生から中学三年生まで、みんな仲が良く、協力的です。特に中学

親子で学ぶ学校、子どもとともに教師も育つ「共育の学舎」を実現させたい、そして、「島の宝」である子どもたちの瞳を輝かせ、元気な声を島いっばいに響かせたい、そんな思いで教育活動に取り組み毎日です。

●島の資源を生かした「浦戸科」

生は小学生に対し思いやりがあり、よく面倒をんでいます。東日本大震災後は、心のケアや安全を考慮し、四班の縦割り編制で集団登校を行っています。登校時は、「お兄さん、お姉さん」と、ニコニコ話しかける小学生とそれにやさしい笑顔で応える中学生の姿があります。

島外からは、子どもたちだけでなく、全教職員が市営汽船を利用して通っています。船の中で、教員に分からないところを教えてもらっている（通称「船勉」）児童・生徒の姿をよく見かけます。

平成二七年度からは、文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、本校では独自の教科「浦戸科」を設けています。浦戸科は、総合的な学習と、特別活動および生活科の一部の内容を再編した教科です。浦戸諸島の

恵まれた自然環境と文化、伝統などの地域素材を生かし、自らの志の実現に向け主体的に取り組む児童・生徒を育てることを、目指しています。現在、九年間を見通した小中一貫教育のもと、この充実に取り組んでいるところです。

この浦戸科の活動は、三つの柱から成り立っています。



浦戸を題材にした創作演劇活動「ACT」。

① 地域の特徴を学ぶ体験学習

浦戸の自然や産業に触れ、地域の良さを体験します。具体的には「アサリ採取」「牡蠣むき・海苔すき（隔年交代）」、「塩竈市唯一の水田がある寒風沢島での「田植え」」などです。浦戸で働く人々の温かさや魅力を感じ、郷土愛が育まれています。

② 主体的な学びの場としての「浦戸合宿」

全校児童・生徒が「浦戸諸島開発総合センター（通称…ブルーセンター）」を拠点に、浦戸の自然や文化を主体的に学びます。「サンドアートづくり」、カヌーや船外機船による「海からの島巡り」、徒歩でそれぞれの島の史跡や景勝地をたどる「陸からの島巡り」などの活動があります。ここでは、島の方々からなる「学校支援地域協議会」や、保

護者の方々など多くの人たちの支援をいただいています。浦戸の環境の素晴らしさ、それを大切にしている人たちの誇りや心の温かさを感じる二日間です（宿泊は小学校三年生以上）。

③ 創作演劇活動「ACT」

地域の自然や文化・歴史を題材にしたオリジナル脚本の演劇を創り上げる活動で、今年で一三回目

となります。思いを伝える表現力や、仲間と一つのものを創り上げることで協力することの大切さを学びます。また、他者を敬い、自らの生き方を考える体験ともなっています。この演劇は、学校の文化祭のみならず、市のホールでも上演し、多くの方々に浦戸の素晴らしさと感動を届けています。

● 内外へ開放された「風通しの良い学校」

学校・家庭・地域が一体となって浦戸科などの活動を推進することで、島の教育素材を最大限生かしています。地元の方々が学校行事に参加したり、児童・生徒が学校を出て地域の活動に参加したりと、内外へ開放された「風通しの良い学校」を中心に、子どもも大人も生き生きと生活しています。

① 地元の方々も参加する学校行事

運動会では、地域の方々と一緒に楽しめる種目を設けています。例えば、海苔を漉くすだれ簾を乾燥用の枠に懸ける「簾懸け競争」は、地域のお年寄りや児童・生徒が手を取り合いながら行います。このような運動会を創り上げるため、運動会の案内状は、児童・生徒が分担して浦戸諸島の各家庭へ配ります。この時も、小学校一年生から中学校三年生までで構成する四班編成で、四つの島（桂島・野々島・寒風沢島・朴島）をそれぞれ担当する形で。

運動会開催に向けた校庭の整地や除草などに、ひよっこ

◆ 島側からみた離島通学 ◆

はじめに、東日本大震災時におきまして、4カ月を超える避難所生活に浦戸小中学校をお借りいたしましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

今年で浦戸中学校は70年の齢を迎えます。巣立っていきました先輩や後輩と出会う機会には、よく学校の話が出てきます。

ましてや、同窓会を開くときなどは、自分たちがその頃に戻ったように話が尽きることなく、時の経つのも忘れるぐらいです。学校とは、何年経っても、誰にとっても、そのようなところなのでしょう。

今の状況はどうでしょうか。私たちが育てていただいた学校は変貌を遂げ、小中一貫校となり、特認校として外部の子を受け入れています。地元にも子どもたちがいなくなったことも大きな要因ですが、当時の先生方や親御さん、行政の方々が一所懸命に努力してくださった結果として、このように、どの地域にもない特徴のある学校になることができたのでしょう。島の住民の一人として、感謝申し上げます。

4月の入学式に始まり、翌年の3月の卒業式まで、季節ごとに学校へ出向く機会がたくさんあります。春には小中学校校合同の運動会、秋の文化祭。特に演劇は、他に類を見ないぐらいの感動を覚えるものです。そして冬、白と杵を用いての昔ながらのもちつき大会もあります。子どもたちや先生方、親御さんとふれあう機会をつくってくれる浦戸小中学校に“ありがとう”という言葉を贈らせてください。

長浜でのアサリ採取、牡蠣むき体験、海苔すき体験など多数の学校行事があり、地域の方々に講師を迎えるなど、積極的な参加型の学校運営により地域とのコミュニケーションが図られていることをとても嬉しく思っています。

子どもたちにとって、浦戸小中学校でしか経験できないものもあります。その一つが、限られた時間を有効に活用する「船勉」です。市営汽船の船の中での勉強……。乗船している一般の方々にとっても、微笑ましい光景に映ることでしょう。

地域の人々、学校の方々、行政や親御さん、みんなで多くの知恵を出し合い、素敵な地域、素晴らしい学校を目指して進んでいくことを期待して、筆を擱きます。

(塩竈市立浦戸小中学校用務員 野々島在住 鈴木 裕)



小中学生が一体となった縦割りの班を4つ編成し、登下校する。

りお手伝いに来られる地域や保護者の方もいらつしやいます。そして、当日の朝は、校門から校庭まで大漁旗が飾られた道ができるのです。

このほか年二回の「地域開放日」には、餅つき大会や浦

戸合宿でつくった「浦戸かるた大会」を行います。その招待状も児童・生徒が配って歩きます。

②地域の一人としての自覚を促す地域活動

「アサリ採取」の会場や「海からの島巡り」の起点となる

浜は、地域の方々によって清掃されています。児童・生徒もその地域清掃に参加することで、同じ空間を共有するものとしての連帯感と感謝の念が育まれています。

また、各島で行われる夏祭りや秋祭りでは、児童・生徒が踊りや太鼓を披露したり、お神輿を担いだりと、会場を盛り上げています。

③多くの方々の厚意で支えられる体験活動

本校の活動の多くは、地域の皆さんはもとより、多くのボランティアの方々のご支援により成り立っています。大学や高校の先生方や、カヌーの設置などの海のスペシャリスト、演劇の指導にあたってくださいださる劇団員の方など、たくさんの方々の手を差し伸べてくださいます。

●浦戸の環境を生かす特認校

特認校制度については、まだ周知が十分とはいえません。そこで、秋には学校案内を市の広報誌に掲載し、学校説明会を幼稚園・保育所で開くなど、広報活動に努めています。浦戸小中学校の合い言葉は「一心同体」です。これは、もちろん、学校に関わりをもっていたくださるすべてのの方々に向けたメッセージでもあります。



「海からの島巡り」に出発する子どもたち。

子どもたちは、島の学校に来ることで豊かな自然に触れることができます。また、島の人たちとの関わり合いの中で、あいさつの習慣や、感謝の気持ちを言葉や行動で表すことを身に付けます。

一方、島に学校があり、毎日子どもたちが通ってくることで、島の皆さんも生活に潤いを感じてくださっているようです。「学校の活動に関わっていくことが生きがいの一部。島の活気にもつながっている」と、言ってくださいださる方もいらっしゃいます。

これからも島の方々とともに歩む学校です。浦戸の素晴らしい教育環境を生かしながら、思いやりがあり、心身ともにたくましく、自らを主体的に高めていく児童・生徒を育てていきたいと思えます。今後も、島の生活や将来の発展に貢献する活動に、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

斎藤博厚（さいとう ひろあつ）

塩竈市立浦戸小中学校校長。気仙沼市出身。気仙沼市立鹿折中学校を皮切りに教員生活29年、南三陸教育事務所指導主事、独立行政法人教員研修センター主任指導主事、鹿折中学校教頭を経て本年4月より現職。気仙沼市立大島中学校に続き、離島勤務は2回目となる。